



Press Release

2020年度
小・中学生

「いのち」の
作文コンクール

受賞作品が決定しました！！

コロナ禍のなか、5,766 作品ものご応募をいただきました！

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団は、「いのち」についての作文を通じて、「いのち」の大切さを考えていただく機会を提供するため、近畿2府4県の小・中学生を対象に『「いのち」の作文コンクール』を開催しました。

コロナ禍での開催となりましたが、大変多くの応募をいただきました。

選考の結果、以下のとおり各賞の受賞作品が決定しましたので、お知らせいたします。なお、表彰式はWEBにて開催します。

☆ 金 賞 (4名)

(敬称略)

部 門	学 校 名	学 年	名 前	題 名
小学生1・2年生	大阪市立嶋野小学校	小1	丹羽 郁登	ぼくのたいせつないのち
小学生3・4年生	大阪市立堀川小学校	小4	荻部 孝政	ぼくのかぶと虫
小学生5・6年生	姫路市立津田小学校	小6	玉田 智愛	私の生きた足跡
中 学 生	奈良県立青翔中学校	中2	小林 大悟	命の重さ

☆ 銀 賞 (10名)

☆ 銅 賞 (16名)

☆ 優良賞 (78名)

◎ 金賞の受賞作品は、「別紙1」をご覧ください。

◎ 銀賞・銅賞・優良賞の受賞作品一覧は、「別紙2」をご覧ください。

◎ 金賞・銀賞・銅賞の受賞者を対象に、1月24日(日)にWEB(Zoom)にて表彰式を開催します。

◎ 金賞・銀賞・銅賞の作品の本文については、当財団ホームページにて掲載します。

◎ そ の 他：詳しくはJR西日本あんしん社会財団のホームページをご覧ください。

<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/sakubun2020/>



☆金賞（4名）

(敬称略)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
大阪府	大阪市立嶋野小学校	小1	丹羽 郁登	ぼくのたいせつないのち
大阪府	大阪市立堀川小学校	小4	苅部 孝政	ぼくのかぶと虫
兵庫県	姫路市立津田小学校	小6	玉田 智愛	私の生きた足跡
奈良県	奈良県立青翔中学校	中2	小林 大悟	命の重さ

☆銀賞（10名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	私立甲南小学校	小2	村松 謙	「いのち」ってなんだろう
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小2	川久保 綾乃	わたしにとっての「いのち」
兵庫県	宝塚市立宝塚小学校	小5	武田 奈々	終わらない「いのち」
京都府	京都市立下鴨小学校	小6	田嶋 葵	自分のために生きる
兵庫県	私立小林聖心女子学院中学校	中2	大原 知紘	ヘアドネーションをしました！
奈良県	奈良市立富雄南中学校	中2	松谷 周香	自分ができる事
奈良県	河合町立河合第二中学校	中2	伊藤 由真	まみちゃんの夏
和歌山県	有田川町立八幡中学校	中2	今西 美里	後悔
滋賀県	私立近江兄弟社中学校	中3	岡崎 真心	命のストーリー
和歌山県	和歌山県立田辺中学校	中3	染道 琉花	私の自慢のお母さん

☆銅賞（16名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小2	千丸 泰芽	どんぐりのなえ
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小2	中本 琉楓	まんまる
兵庫県	西宮市立南甲子園小学校	小3	大恵 朱実	命があるきせき
兵庫県	私立甲南小学校	小4	井野上 碧泉	明子さんの命の音色から
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小4	成川 愛珠	おじいちゃんの命
大阪府	大阪府立大阪北視覚支援学校	小6	大坂 ひなた	生きのびるということ
大阪府	堺市立長尾中学校	中1	大石 美空	入院を通して考えた「いのち」
大阪府	私立箕面自由学園中学校	中1	櫻井 美羽	強くて脆い命
兵庫県	神戸市立鷹取中学校	中1	榊原 亜衣	忘れない。いつまでも・・・
京都府	京都市立久世中学校	中2	角村 桃奈	小さな命から考えたこと
京都府	京都市立修学院中学校	中2	酒枝 蒼空	リードの命
京都府	京都市立双ヶ丘中学校	中2	大橋 梨沙	生命の物語
兵庫県	私立関西学院中学部	中2	三木 煌太	タガメが教えてくれた命
兵庫県	私立小林聖心女子学院中学校	中2	鈴木 媛柚	その日は、突然やってきた
京都府	京都市立向島東中学校	中3	中西 創志郎	機械のいのち
大阪府	大阪教育大学附属池田中学校	中3	中村 咲陽	飛べない蝉

☆優良賞 (78名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
滋賀県	草津市立老上西小学校	小6	籾内 梨琴	私と命
滋賀県	大津市立石山中学校	中1	村上 佳帆	弟の生まれた日
滋賀県	大津市立北大路中学校	中1	紺田 響	命の価値観
滋賀県	大津市立北大路中学校	中1	宮越 花南	私にとっての「いのち」
滋賀県	竜王町立竜王中学校	中1	猫田 紗瑛	命へありがとう
滋賀県	大津市立石山中学校	中2	中村 睦仁	受け継がれてきた自分の命
滋賀県	彦根市立中央中学校	中2	松村 朋果	命の音
滋賀県	東近江市立聖徳中学校	中3	藤川 優月	いのちの光
滋賀県	竜王町立竜王中学校	中3	諸田 大晴	平和といのち
京都府	京都市立岩倉北小学校	小3	尹 智湖	命
京都府	京都市立太秦小学校	小3	長谷川 詩亜	「いのち」について
京都府	私立京都女子大学附属小学校	小3	小峯 れいあ	命をいただくこと
京都府	京都市立新町小学校	小4	ロー ナタリー	太陽よりも温かい「命」
京都府	京都市立仁和小学校	小5	石倉 里桜	命
京都府	精華町立精華台小学校	小5	藤田 愛実	妹が教えてくれた、かけがえのない命
京都府	京都府立南陽高等学校附属中学校	中1	大森 志穂	いのちはほうき星
京都府	京都市立久世中学校	中1	丹光 心遥	たった一つのいのち
京都府	京都市立双ヶ丘中学校	中2	森 奈那	ねえ、今天国で幸せ？
京都府	京都市立双ヶ丘中学校	中3	宮本 紗有	青い鳥になりたい
大阪府	大阪市立榎並小学校	小1	久保毛 涼太	いのちのながさ
大阪府	私立関西創価小学校	小2	福田 幸恵	ミニトマトのいのち
大阪府	大阪市立荻田北小学校	小3	藤田 徠那	守るいのち、守られるいのち
大阪府	大阪市立平野小学校	小4	辻野 陽花	「命の大切さを知った食べ物」
大阪府	大阪市立矢田東小学校	小4	岩成 絢	命
大阪府	私立関西創価小学校	小5	池田 冠都	ホテルと命
大阪府	私立城星学園小学校	小5	申 莉寧	世界の飢餓をなくすには
大阪府	大阪市立玉川小学校	小6	村上 唯生	生きる意味
大阪府	私立大阪YMCAインターナショナルスクール	小6	呉 潤希	命のろうそく
大阪府	堺市立長尾中学校	中1	杉山 央音	忘れられない命
大阪府	堺市立浜寺南中学校	中1	笹倉 愛唯	天国と繋ぐ透明の糸
大阪府	私立箕面自由学園中学校	中1	細川 あい	虹の橋
大阪府	枚方市立枚方中学校	中2	三上 千鶴	頂きます
大阪府	八尾市立亀井中学校	中2	阪本 和音	今、ここにいるということ
大阪府	八尾市立亀井中学校	中2	高島 実蘭	手紙
大阪府	八尾市立亀井中学校	中2	辻井 凜	生きがい
大阪府	八尾市立亀井中学校	中2	松永 月彩	分からない未来
大阪府	八尾市立亀井中学校	中2	宮之原 冴	教えてくれたもの
大阪府	大阪府立箕面支援学校	中2	柳井 美緒	自分の人生は自分で切り開こう！！
大阪府	東大阪市立孔舎衛中学校	中2	寺内 ちほ菜	諦めるまでは終わっていない
大阪府	東大阪市立孔舎衛中学校	中2	宮田 里彩	目に見えないもの
大阪府	大阪教育大学附属池田中学校	中3	田中 莉穂	いのちの意味
大阪府	大阪市立平野北中学校	中3	川田 優花	生きる意味
大阪府	吹田市立第一中学校	中3	篠原 里奈	涙が出る日

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
大阪府	八尾市立亀井中学校	中3	宮本 美憂	生きている「いのち」
兵庫県	神戸市立こうべ小学校	小3	榎本 阿紋	いのちについて
兵庫県	神戸市立湊小学校	小3	田原 和花	いのちの作文コンクール
兵庫県	加古川市立氷丘小学校	小3	豊田 美咲	一人一つかけがえのないいのち
兵庫県	神戸市立福池小学校	小4	佐野 絢音	ロボットと人
兵庫県	神戸市立福池小学校	小4	寶角 太一	ぼくの大好きなおばあちゃん
兵庫県	加古川市立氷丘小学校	小4	宮本 亘	「命」について
兵庫県	川西市立緑台中学校	中1	角南 美和	生きている意味
兵庫県	私立関西学院中学部	中1	藤本 怜汰	命の尊さ・大切さ
兵庫県	私立小林聖心女子学院中学校	中1	神谷 彩	窮屈で自由な世界
兵庫県	私立夙川中学校	中1	石田 伊知香	キョーダイ
兵庫県	私立夙川中学校	中1	伊東 滯央	セミの一生
兵庫県	私立夙川中学校	中1	大西 彩菜	私の大切な命
兵庫県	私立夙川中学校	中1	後藤 楓華	小さな幸せ
兵庫県	私立百合学院中学校	中1	井本 千暖	人のぬくもり
兵庫県	尼崎市立小園中学校	中2	多々美 陽菜	死があるから、生が輝く
兵庫県	川西市立緑台中学校	中2	岸本 玲音	一人の兄が世界を変える
兵庫県	小野市立小野南中学校	中2	高田 友愛	入院の経験
兵庫県	私立関西学院中学部	中2	馬場 玲娃	残りの時間
兵庫県	私立小林聖心女子学院中学校	中2	木浦 衣央	人の命は地球より重い
兵庫県	私立小林聖心女子学院中学校	中2	中脇 あかり	失ってから学ぶ命の尊さ
兵庫県	神戸市立港島学園中学部	中3	香西 万桜	“自殺”について
兵庫県	姫路市立大津中学校	中3	小林 泉水	私のいのちは私のもの？
兵庫県	姫路市立東光中学校	中3	森 美翠	命の生き方
奈良県	私立近畿大学附属小学校	小1	田邊 愛李	わたしのたからもの
奈良県	香芝市立香芝東中学校	中1	栞村 羽月	雪山の「いのち」たち
奈良県	私立帝塚山中学校	中1	河波 慶汰郎	「生」も「死」も「いのち」
奈良県	奈良県立青翔中学校	中3	吉井 ほのか	生きていく
奈良県	大和郡山市立郡山西中学校	中3	藤森 美花	「いのち」の源
奈良県	斑鳩町立斑鳩中学校	中3	米倉 京香	生きる意味
奈良県	明日香村立聖徳中学校	中3	関本 希実	天国のお兄ちゃん
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小2	宮本 旬	はせ川さんとどくへび
和歌山県	和歌山市立川永小学校	小5	小原 海音	いのち
和歌山県	和歌山県立田辺中学校	中3	村上 実咲	いのち
和歌山県	田辺市立衣笠中学校	中3	野崎 心々呂	たった一人の

表彰式について

◎開催日時：2021年1月24日（日）14：00～15：30

◎内 容：・理事長あいさつ
・金賞 受賞者 表彰状の贈呈（読み上げ）、受賞者コメント
・銀賞、銅賞 受賞者 表彰状の贈呈（読み上げ）
・重松 清 氏の講演

◎参加者：

① 受賞者

金賞、銀賞、銅賞の各受賞者ならびに保護者・学校関係者等 計約40名

② 最終選考委員会

委員長 重松 清 氏（作家）

副委員長 菊池 省三 氏（教育実践研究者）

委員 柏木 哲夫 氏（大阪大学名誉教授、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長、当財団理事）

委員 坂下 裕子 氏（こども遺族の会「小さないのち」代表、当財団理事）

委員 丸川 征四郎 氏（吹田徳洲会病院 顧問、近畿大学医学部客員教授、当財団理事）

③ J R西日本あんしん社会財団関係者

理事長 来島 達夫 （西日本旅客鉄道株式会社 取締役副会長）

常務理事 水口 英樹 （西日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員）

◎その他：取材をご希望の場合は、1月20日（水）17:00 までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。（TEL：06-6375-3202）

なお、インタビューなど、表彰式とは別の時間を必要とする場合は、調整のうえ回答させていただきます。

【参考：コンクール概要】

◎テーマ：あなたにとっての「いのち」

「いのち」について、誕生の喜びや失った悲しみ、力強さや弱さ、美しさや輝きを感じた瞬間など、さまざまな観点からの作品を募集

◎募集対象：近畿2府4県に在住・在学の小学生および中学生

◎主催：公益財団法人 J R西日本あんしん社会財団

◎協力：西日本旅客鉄道株式会社

◎後援：滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、神戸新聞社、京都新聞、大阪日日新聞、京都大学こころの未来研究センター、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

金賞受賞作品

「ぼくのたいせつないのち」

大阪市立嶋野小学校 一年 丹羽 郁登

ことしの冬、かぞくで、かきをたべました。口の中に、たねがのこりました。ぼくは、かきが大すきです。このたねを、うえたら、かきの実がたくさんできるかな。じぶんでそだてた、かきの実はきくと、とってもおいしいぞとおもい、ペランダのうえ木ばちに、たねをうえました。お母さんは「めなんて、でてこないわよ。」といいました。それでも、ぼくは、うえました。

春になって、お母さんがペランダからぼくをよびました。「めがでてる！」ぼくは、びっくりしてみにいきましました。かきのめがでていました。かきのたねのかわをかぶったかわいめでした。ぼくは、すごいとおもいました。じぶんで、うえたたねがめをだして、うれしかったです。となりで、お母さんがいいました。「いのちって、すごいね。かきの実はいっくんの体にはいつて、いっくんのいのちになつてくれた。かきのたねは、こうしてめをだして、また、実をつけて、だれかのいのちになるのかもしれないね。このめは、いっくんのそだてたいのちだよ。」ぼくは、早くかきの実を、たべたいとおもいました。かきの実が大きくなつて、たくさんの実をついたら、じいじやばあばにもあげたいとおもいました。おともだちやかぞくといっしょにたべたいです。ぼくのそだてた、たいせつないのちを、ぼくがたいせつな人たちに、わけてあげたいです。

「ぼくのかぶと虫」

大阪市立堀川小学校 四年 荻部 孝政

ぼくは三年生の夏、かぶと虫を育てました。おすだつたので、カブキと名前をつけました。

毎朝、ぼくは目が覚めるとカブキを見に行くのですが、その日はカブキの様子がいつもとちがってしまいました。さわつてもびくりともしません。夜の間に死んでしまったのです。ぼくはせつなく大事に育てていたのに死んでしまつて、まるで大切な友達を失つたようなやるせない気持ちになりました。そんなぼくを見て、お父さんが、「ひよう本にしたらどう？」

と聞いてくれたので、ひよう本を作ることにしました。ひよう本にしたらカブキとずつと一しよにいられる、ぼくはそう思いました。

ぼくは早速ひよう本作りを始めました。まずは固まったカブキの体をえきにつけ、そつと足をひろげました。ひよう本にしてカブキはよろこぶかなあ、とまよいながら手を動かしていました。カブキをそのままの形で残すためには、カブキを虫ピンでさして固定しなければなりません。でも、ぼくはかわいそうで出来ませんでした。またたましいは残っていると考えたからです。もし、たましいが残っていたらきつと、虫ピンでさされていたいと感じるだろうな。友達のように思っていたカブキにそんなことはできません。ぼくはカブキをひよう本にするのをやめました。

カブキは、よう虫のとき土の中にいたので、元いた場所に返してあげようと思いました。ぼくはカブキを家の近くの公園にうめに行きました。

「安らかにねむれますように。ぼくはカブキのことをわすれないからね。また会いに来るよ。」

土の中にはカブキの仲間がいるかもしれません。仲間に出会えているといいなあと思います。

ぼくもときどき、その公園にカブキに会いに行っています。カブキは喜んでくれているといいなあ。

「私の生きた足跡」

姫路市立津田小学校 六年 玉田 智愛

私にとつての生きた証は、お腹にある大きなきずあとです。これは、私が病気とたたかっていた証でもあります。でも、プールや学校行事でおふろに入るとき、友達にこのきずを見せることには少し抵抗があります。それでも、私はこのきずがないと生きていかなかったからこのきずがとっても大好きです。

私は三才の時に「小児がん」と診断されました。病気になって今年で八年が経ちました。それでも、まだまだ病気とたたかわないといけません。そのとき、まだ私は小さかったのであまり覚えていませんが、家族がそのときの話を、たくさんしてくれました。

病気が分かったとき、がん細胞が大きすぎてすぐに手術できず、抗がん剤治りようをすることにしました。その副作用はとてつと吐き気がしたりかみの毛もぬげ、全然ご飯が食べられなくなりました。

月日がたち、やつと手術ができるようになり、初めての手術は、時間程度かかったそうです。

そして、またあのつらい抗がん剤治りようが始まりました。ふつと2人では想像もできないくらいつらくて、しんどい治りようです。それでも私は絶対に病気に負けたくありませんでした。私の母は「あきらめたらそこで試合終了。」とよく言います。だから「あかん、今ここであきらめたら元気になってみんなと遊べない。」という思いがずつとあり、頭の中で自分が頑張れるように思っていたのを本当にかすかですが、うっすらと覚えていきます。家族も先生もたくさん応援してくれました。

私には病気になったことよりも、つらい抗がん剤治りようを受けたことよりも一番いやだったことがあります。それは、年に一度しかない誕生日が二年続けて手術になったことです。正直、しないといけないと分かっている一年に一回しかない誕生日になせ辛いことをしなさいといけないうらさうと思えました。ふつうならケーキを食べてみんな

でお祝いする日なのになんで私だけ……とも思いました。でも、今なら分かります。あのとき、こんな思いをして頑張ったからこそ、今生きられているということ。少しずつみんなと同じように学校に行つて遊ぶことができるということ。

小児がんという病気になつて、つらいことやいやなこと、お腹に大きな傷も残つたけど、学ん

だこともたくさんあります。私は、小児がんになつたけど、今は生きることが楽しくて、とっても幸せです。

「命の重み」

奈良県立青翔中学校 二年 小林 大悟

始まりは店で買つてきた一個の卵だった。重さは五十g。何の変哲もない一個の卵、これをふ卵器に入れる。ふ卵器のふたはいつも曇つていて、中は見えにくい。けれどその中で僕たちと同じ一つの命が、じわじわとはくまれている。

有精卵を割る時、そして混ぜるとき、命を食べているんだ、といつも思う。

約三週間後、ヒヨコが殻を破つて産声をあげる。殻に穴を開け、小さな口をのぞかせヒヨヒヨと一生懸命息をし始めると、僕はいつもどきどきする。

二、三日すると羽も乾いて黄色や茶色のももこのかたまりになる。これがコケツと鳴きながら庭を駆け回る「鶏」になるのだからおもしろい。

その成長は驚くほど早い。一瞬目をはなしてから見返すと、一まわり大きくなつてきている気がする。大騒ぎの中、餌の世話、糞の処理、水の世話をして十六週間でメスは「初卵」を産む。初卵は小さいが、ずつしりと重い。手のひらにのせるど輝いてさえ見える。

オスは名前をつけない。朝早くに大声で鳴き始め、メスにとびかかるようになると、僕たちは丸焼きから揚げかの算段を始める。昔はどの家も鶏を飼つていて、人が来る

ときばいてふるまつたものだ、と祖父が言う。

こうして残つたメスたちが毎日一個ずつ卵を産む。その数六羽、中雛たちが八羽。これから楽しみたのしみ。

メスたちは卵を産まなくなつても飼い続ける「家族」なので、名前が必要だ。最初の二羽はボリスブラウンにしては薄い色の、ちようどカフフェオレのような色合いだったので、「オレ」と呼ぶことになった。もう少し濃い方が「モカ」。

今いる鶏の中の最年長になる。少しモカの話しよう。

モカはとても賢い鶏だった。オレは元気で食いしん坊。モカは何か怪しいもの、ヘビや猫が現れたら、必ず僕たちに知らせた。

放鳥しても、夕方オレンジ色が山の向こうに消えるころには、必ず自分で小屋にもどつていた。

でもモカはもういない。朝みたら六羽のうちモカだけがいなかった。

ある日の夕方、放鳥していた鶏たちを小屋に仕舞つた。家人はみな買い物に出かけ、僕の仕事だった。

いつものようにみな小屋かその周りに集まつていて、仕舞うのは簡単だった。いつも一番最後まで外で遊びたがる若い「ソルベ」をつかまえて、扉を閉めて網をかけた。僕は、全員の数を数えなかった。この時からもうすでにモカはいなかったのかもしれない。それか、夜のうちに野生動物が忍びこんで、モカだけ連れ去つたのかも。網は破

れていないし、羽も飛び散っていない。

とにかくモカだけいない。僕は泣いて、泣いて、泣いた。僕の責任だ。僕が確かめなかったからだ。

大事に卵から見守つてきた子が、夜の闇の中で悲鳴をあげていたかもしれない。何か悪いものが、モカを引き裂いたかもしれない。もっとよく確かめていれば……。

何か月たつても、モカのことにはあきらめきれない。朝も

昼も夜も、窓の向こうの田んぼや森を眺めては、小さな姿

が走つて来はしないかと思つている。コトツと音がすれば

飛び起きて、確かめもした。

「モカなの？」

でも違つた。モカは帰つて来なかった。一度野良の鶏がいると聞いて見に行つたが、モカではなかった。だれか人間につかまつて、そこでご飯と水をもらえていればいいのにも思つた。または賢いモカのことだから、山の王のような強いキジかなにかの妻になつて子孫を増やしているかもしれないと思つた。

僕の手のひらに乗つていた小さな卵は、二kgの立派な命になり、家族として毎日抱つこして可愛がつた。でも、お別れは唐突だ。

僕の心にも大きな埋まらない穴が開いた。命を扱うには覚悟が必要なのだろう。